



## 事業計画書

1. 事業名称 「キッズイノベーション」事業  
～子どもとおとなの理科実験・理科工作～  
《新しいアイデアから創造する新たな価値》
2. 実施主体
  - 団体名： 特定非営利活動法人サイエンスシャワー
  - 事業担当課： 松戸市教育委員会 生涯学習本部 企画管理室

### 3. 事業目的及び社会的効果（アウトカム）

#### □ 背景

活力にあふれ、豊かで安全、安心な社会を構築するためには、世界の先頭に立って新しい創造や技術革新を行う「科学技術創造立国」の実現が必要不可欠です。そのためには、新しいアイデアから社会的意義のある新たな価値を創造し、社会的に大きな変化をもたらすことのできる自発的な市民となれる子どもを育成するとともに、チャレンジ精神に満ちた科学技術の担い手を掘り起こし、活用することが求められています。

#### □ 事業の目的

##### ① 子ども理科実験・理科工作の提供

子どもたちを対象に、五感を働かせ、体を動かし「実験・実習・観察・創意工夫」する理科教室を開設し、子どもたちの科学に対する興味・関心を高めます。

##### ② 多彩なおとなの活用

社会貢献を推奨している団体・企業の協力を得て、豊富な知識、バリエーターに富んだ人材を確保し、活用します。

#### □ 社会的な効果

この事業をとおして多くの子どもたちが「科学」を学び、家庭や地域の方々が「科学に興味・関心」を持ち、科学の大切さを知ることができます。さらに、地域の企業や業界団体との連携を進めることにより、理科実験・理科工作を通じた子どもとおとなのコミュニケーションとネットワークのインフラを作り上げることができます。

#### 4. 事業の課題及び事業成果（アウトプット）

##### □ 背景

今日、子どもの絶対数が年々確実に減少していくことと並行し、彼らの生活にはテレビやゲームなど刺激的なことを体験する機会がたくさんあります。

また、学校教育における幾度の学習要領の改定などにより、理科の素質を持つ多くの子どもたちが勉学の機会や意欲を失っています。

##### □ 事業の課題

###### ① 学校を活用した理科実験・理科工作教室の開設

地域に密着している学校の理科室等を活用し、平日の放課後や休業中・長期休業中などに定期的に理科実験・理科工作を開催します。また、市内均等化を配慮し、毎年事業規模の拡大を目指します。

###### ② 研究所や企業の最新鋭施設の見学

研究所や企業の研究者や技術者が「子どもたちのためのセミナー」を開催します。

###### ③ キッズイノベーションセンターの開設

3年次においては、「理科実験・理科工作」の探求を深める拠点として、キッズイノベーションセンターを開設します。（学校の余裕教室の活用を想定）

#### 5. 協働の意義

##### □ 提案者にとっての意義

① 市（教育委員会）との協働により、学校施設の確保・活用が容易になるとともに、学校関係者、保護者との理解・信頼関係が深まります。

② 協働により、豊富な人材の確保がしやすくなり、理科実験の開発・企画が充実し、「感動を与える理科実験・工作教室」が構築でき、活動の輪が広がります。

##### □ 市にとっての意義

① 提案者との協働により、学校・家庭・地域連携施策を進めるため基盤構築が図れます。

② 市民の生涯学習に対する支援の要請に応える機会と場所が提供できます。

③ 現在の学校理科教育ではできない児童・生徒の理科に対する興味・関心を高めることができます。

#### 6. 事業実施の役割分担

##### ■ 提案者の役割

理科実験・工作の開催。実験の開発・企画。人材の確保と研修。

##### ■ 市の役割

広報活動・負担金・共催（後援）の確保、情報提供。

## 7. 事業スケジュール

### ① 柿ノ木台小理科教室（場所：柿ノ木台小学校・理科室 実験日時：土曜日 9：00-11：00）

22年4月	準備	学校長あてに提案書を発送
22年5月	調整	小学校と詳細な打ち合わせ。
	体験実験	体験実験を行う
22年6月	実験	小学校で2回（2/18）理科実験を行う
22年7月	実験	小学校で2回（4/18）理科実験を行う
22年8月	見学会	候補予定（本田技研工業 埼玉製作所）
22年9月	実験	小学校で2回（6/18）理科実験を行う
22年10月	実験	小学校で2回（8/18）理科実験を行う
22年11月	実験	小学校で2回（10/18）理科実験を行う
22年12月	実験	小学校で2回（12/18）理科実験を行う
23年1月	実験	小学校で2回（14/18）理科実験を行う
23年2月	実験	小学校で2回（16/18）理科実験を行う
23年3月	実験	小学校で2回（18/18）理科実験を行う
23年3月末	実験	終了（修了証書を授与）

### ② 六実中学校第2理科教室（場所：六実中学校 実験日時：土曜日 13：45-16：45）

22年4月	準備	学校長あてに提案書を発送
22年5月	調整	参加希望の2学校と詳細な打ち合わせ。
		体験実験を行う
22年6月	実験	中学校で2回（2/18）理科実験を行う
22年7月	実験	中学校で2回（4/18）理科実験を行う
22年8月	見学会	候補予定（本田技研工業 埼玉製作所）
22年9月	実験	中学校で2回（6/18）理科実験を行う
22年10月	実験	中学校で2回（8/18）理科実験を行う
22年11月	実験	中学校で2回（10/18）理科実験を行う
22年12月	実験	中学校で2回（12/18）理科実験を行う
23年1月	実験	中学校で2回（14/18）理科実験を行う
23年2月	実験	中学校で2回（16/18）理科実験を行う
23年3月	実験	中学校で2回（18/18）理科実験を行う
23年3月末	実験	終了（修了証書を授与）

③未定小学校理科教室（場所：小学校理科室 実験日時：土曜日 9：00-11：00）

22年4月	準備	学校長あてに提案書を発送
22年5月	調整	小学校と詳細な打ち合わせ。
	体験実験	体験実験を行う
22年6月	実験	小学校で2回（2/18）理科実験を行う
22年7月	実験	小学校で2回（4/18）理科実験を行う
22年8月	見学会	候補予定（本田技研工業 埼玉製作所）
22年9月	実験	小学校で2回（6/18）理科実験を行う
22年10月	実験	小学校で2回（8/18）理科実験を行う
22年11月	実験	小学校で2回（10/18）理科実験を行う
22年12月	実験	小学校で2回（12/18）理科実験を行う
23年1月	実験	小学校で2回（14/18）理科実験を行う
23年2月	実験	小学校で2回（16/18）理科実験を行う
23年3月	実験	小学校で2回（18/18）理科実験を行う
23年3月末	実験	終了（修了証書を授与）

④未定小学校理科教室（場所：小学校・理科室 実験日時：土曜日 13：45-16：45）

22年4月	準備	学校長あてに提案書を発送
22年5月	調整	小学校と詳細な打ち合わせ。
	体験実験	体験実験を行う
22年6月	実験	小学校で2回（2/18）理科実験を行う
22年7月	実験	小学校で2回（4/18）理科実験を行う
22年8月	見学会	候補予定（本田技研工業 埼玉製作所）
22年9月	実験	小学校で2回（6/18）理科実験を行う
22年10月	実験	小学校で2回（8/18）理科実験を行う
22年11月	実験	小学校で2回（10/18）理科実験を行う
22年12月	実験	小学校で2回（12/18）理科実験を行う
23年1月	実験	小学校で2回（14/18）理科実験を行う
23年2月	実験	小学校で2回（16/18）理科実験を行う
23年3月	実験	小学校で2回（18/18）理科実験を行う
23年3月末	実験	終了（修了証書を授与）

⑤ 出張理科実験・理科工作

小学校からの要請に応じ、体育館等で全員参画する「理科実験屋台村」を開催します。

## 8. 将来の展望

- ① これらの事業を広く深く発展させ、1校/年の割合で増やし、サイエンスプロデューサーの人材を強化します。そして多くの子どもに楽しい理科実験を体験する機会を作ります。
- ② 子どもたちの無限な可能性を伸ばすために、社会貢献を進めている企業・業界団体の協力で、研究所や企業の研究者や技術者による「科学実験・理科工作」を開催します。
- ③ 多くの施設機関団体等の協力で自然観察やキャンプなど自然に親しむ機会をつくります。
- ④ 豊かな科学的素養を育成する体制のより一層の充実のために、活動の拠点となる「キッズイノベーションセンター」を設立します。センターでは、ソフト、ハードからロボット制御の開発や子どもによるFMラジオ局の開局を行う予定です。

## 事業の予算概要

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

	（自己資金）	金 額	積算内訳
提案者	参加費	1,188,000 円	参加費 550 円×18 回×120 人
	見学会	30,000 円	保険 500 円×60 人
	自己資金合計（a）	1,218,000 円	
	労力換算額計（b）	378,000 円	労力換算計算書のとおり
	市	負担金申請額（c）	279,200 円
資金合計額（d）（a+c）		1,497,200 円	事業費（g）と同額

【負担金申請額（c）チェック項目】

1. 対象となる経費（e）欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 50 万円以内
3. 自己資金（a）欄に労力換算額（b）欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算（支出）】

	項 目	金 額	積算内訳
負担金の交付対象経費	講師謝金	661,200 円	講師 1 名/アシスタント 3 名
	広報チラシの印刷	96,000 円	8000 部×12 円
	ポスターの印刷	60,000 円	100 部×600 円
	消耗費	330,800 円	
	通信費	38,400 円	80 円×120 人×4 回
	保険	180,000 円	1500 円×120 人
	見学会イベント保険	30,000 円	500 円×60 人
対象となる経費合計額（e）		1,396,400 円	
その他経費	交通費	64,800 円	18 回×300 円×4 人×3 回
	会議費	36,000 円	2000 円×18 回
	その他経費合計額（f）	100,800 円	
事業費（g）（e+f）		1,497,200 円	収入合計額（d）と同額

# 労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画	/	人数×時間×回数×500円
	理科実験内容打ち合わせ 36回	108,000円	4人×1.5h×36回×500円
	実験準備 36回×2	162,000円	3人×3h×36回×500円×2回
	企画打合せ	108,000円	6人×6h×6回×500円
	合計 (b)	378,000円	